

10月の園だより

学校法人志賀学園
認定こども園
平第一幼稚園
令和6年9月30日

今日で9月も終わり、明日から10月になります。園庭には子どもたちの「がんばれー！」と運動会の取り組みでの応援の声が毎日響き渡っています。いよいよ10月8日（火）に、開催される秋季大運動会が近づいてきました。子どもたちもご家族が見に来られることをとても楽しみ活動に取り組んでいます。特にさくら組さんは、かけっこ遊びからお友だちと協力して、バトンを繋げるリレーに形態を変え取り組むことで「勝ち負け」に対しても意識が強くなり、どうしたら勝てるのか、前を走っている子を抜かすにはどうしたらいいのかなど、その都度、話し合いを設けて意見を出し合いながら進めてきました。当日のリレーもご家族の声援も交じって盛り上がりを見せるのが今から楽しみです。

10月1日（火）から衣替えになりました。まだまだ暑い日も続いています。季節の移り変わりを感じることや気候によって衣服を調節する経験を習慣化する上でも衣替えは、大切なものになります。

ばら組さんのクラスでは毎日のお着替えの際に、先生にお手伝いしてもらうことから少しずつ「自分でやってみたい」気持ちが表れてきたお子さんも増えてきました。その時には、担任の先生は見守りながら時には援助をしたりとその都度、それぞれのお子さんに合った関わりを行っています。ある時、私が着替えの時間にお部屋に入った際に、「ボタン外すね」と手伝おうとすると「自分でできるんだよ」と自信満々にお話をしてくれたばら組さんがいました。ぎこちないながらも一生懸命に指先を使ってボタンを外していました。できた時の嬉しそうな表情がとても印象的でした。何気ない日常の一場面ですが、私自身にとってもいい体験になりました。

「10月の子どもの特性」【仲間意識期】

「運動会」を10月頃に設定することは、幼児期の子どもたちの成長段階の中で大きな意味合いを持っています。

「自己主張期」を経験することで、自分の考えを中心とした考えから少しずつ相手の気持ちにも意識を傾けることができるようになってきます。そうした心の成長が子どもたちの意識を自分から「友だち」に次第に移り変わらせていきます。

その中で、「運動会」というクラス、学年単位で取り組む行事を設けることで、更なる「意識」が変化していきます。

今月は、「運動会」の取り組む中で、見られたすみれ組（4歳児）さんの玉入れの様子から今の子どもたちの成長や心身の育みについてお伝えさせていただきます。

夏休み明けからお部屋にて、新聞紙遊びの中で、新聞紙をちぎったり、ふわっと投げたり、うちわであおいで遊ぶことを楽しみました。そこから玉を使った遊びに移り変わっていききました。玉入れ遊びも初めから紅白の玉を出すのではなく、子どもたちに気づきや勝ち負けについても意識を向けてもらいたいという担任の思いもあり、赤玉のみを使って玉入れをしました。遊んでいく中で先生が「赤の勝ちー！」と伝えると「先生赤い玉しかないよ」、「白い玉はないの？」など子どもたちから話があがり、白い玉も追加して取り組むようになりました。玉入れをしていく中で、最初はそれぞれが自由に玉を入れていたので、かごに中々玉が入らず何度も続けて負けてしまうチームもありました。担任の先生がどうして負けてしまうのかを考える時間を設けたところ、「投げ方」や「玉の拾い方」など子どもたちから様々な意見ができました。

玉入れ中に、玉の取り合いで喧嘩してしまったり、自分の意見を主張したいあまり、お友だちと意見がぶつかってしまうことも多々ありますが、色々なできごとや思いに気づきながら「葛藤」するという経験をすることで相手の思いに耳を傾けることができたり、お友だちの大切さに気づき協力しようとする「協調性」が芽生えたりと玉入れの活動一つをとっても子どもたちがたくさん「気づき」を体験している場面がすみれ組でも多く見られています。

このような葛藤を繰り返し、仲間関係を深める時期は「仲間意識期」といいます。4歳児の中間に差し掛かり、友だちと共感したり、刺激を受けたりして、自分なりに表現しながら意欲的に遊びを進めたりができるようになってきています。また、ルールや決まりの大切さに気づき、守ろうとする気持ちが強くなったり、体力がつき、遊びの取り組みへの持続時間が長くなったりと3歳児の時よりも成長の変化が著しい時期でもあります。これから先、運動会だけでなく、作品展、生活発表会など集団で取り組む活動が目白押しです。

運動会当日もそのような背景があったことを知っていただいた上で、ご覧いただくと子どもたちの成長をより一層感じていただけると思います。



【新聞遊びの様子】



【赤玉のみを使った玉入れ】